

「施設運営アカデミー」 施設運営に携わるスタッフの連携・育成



事業内容

文化・芸術活動や地域活動に関わる施設は市内に多数ありますが、それらの活動を連携させ、スタッフの育成を協働で行うことで、相乗効果が期待できます。新たな施設では、施設運営に携わるスタッフを対象とした勉強会、発表会を実施し、各施設における課題の共有や、先進事例の紹介、合同での企画会議など、苫小牧全体における文化・芸術活動、地域活動の活性化を図ります。苫小牧市として一丸となり取り組むべき課題と、各施設の個性を發揮した役割や位置付けについて、スタッフ自身が明確に意識できるほか、施設運営者同士の横のつながりを楽しみながら育んでいく取組です。

実施することで得られる効果・可能性

市内全域での文化芸術・地域施設の連携

実現する上での課題

アカデミーの運営主体となる人材の確保
各施設の協力体制

「広報とまこまい増刊号 文化編集部」

広報とまこまいと連携した市民編集部員による文化情報誌制作



事業内容

広報とまこまいは、市民の貴重な情報源として親しまれていますが、記事の締切日が早いことや、誌面量の制限により詳細な内容を掲載することが難しいこともあります。新たな施設では、この広報の増刊号として文化・芸術活動、地域活動に特化した内容を市民が編集します。例えば、広報でイベント予告がされているサークルへの取材や、公演が予定されているホールでの練習風景の紹介など、市民の関心を引きつける内容を掲載します。また、SNS等のメディア発信を連動させ、最新情報の提供に努めます。全戸に配布される広報の情報発信の強みと、通常の情報誌とは異なる角度で市民自らが取材する増刊号の面白さを融合させた編集部です。

実施することで得られる効果・可能性

日常的な情報誌と連動した文化芸術活動への関心の喚起
 広報の内容をより詳細に補足できる相乗効果

実現する上での課題

広報とまこまいとの連携
 編集スタッフの勤務体制の検討

「北の歳時記～アウトドア展示推進企画室～」 屋外イベントと展示を結びつける企画



事業内容

屋外における賑わいは、普段文化施設に足を運ばない市民にとって、来訪の敷居を低くする一つの要素です。そこで、展示機能においても屋外を積極的に利用します。例えば、月の満欠けの観察会とそれにちなんだ作品を制作・展示するイベントや、ニューイヤーコンサートと雪を用いたキャンドルの飾付けといった、市民による制作や文化講座と連動させた展示を企画します。また、暖かい季節には、制作スタジオの一部を開放し、屋外スタジオとして日曜大工や子どもたちの遊び場作製など、屋内と屋外を効果的に活用し、それが展示につながる仕組みをつくります。このような展示を企画する組織には美術や技術スタッフがアドバイザーとして参加し、市民によるイベント企画などを技術面で支えます。いつ足を運んでも季節が感じられるといった、地域の魅力を発信する取組です。

実施することで得られる効果・可能性

施設の賑わいづくり
文化芸術活動への興味・関心の喚起

実現する上での課題

鑑賞や活動機能で展開される企画との連携
技術・美術スタッフの養成